

## 2 佐賀県内のアライグマについて

### 2.1 佐賀県及び近県におけるアライグマ分布状況

平成 20 年度までの分布確認記録は、佐賀市、伊万里市、有田町、武雄市、鳥栖市、唐津市の 6 市町のみでしたが、平成 21 年度の生息実態調査によって、県内 20 市町の内、15 市町において分布が確認されました。

平成 20 年度の分布状況(市町ごと)を図 2.1 に、平成 21 年度の分布状況(市町ごと)を図 2.2、平成 21 年度の分布状況(三次メッシュ)を図 2.3 に示しました。

伊万里市、有田町、武雄市、唐津市南西部及び西部を主な範囲とするものと、三養基郡、鳥栖市、神崎市、佐賀市北部(富士町、三瀬村、大和町)を主な範囲とするものの 2 つの分布傾向が見られます。これらは、長崎県を起源とする個体群と福岡県を起源とする個体群がそれぞれの中核になっていると思われています。

佐賀県に隣接する、福岡県と長崎県のアライグマ分布状況を図 2.4 に示しました。なお、福岡県及び長崎県では、アライグマの生息状況に関する詳細な調査が行われていないため、平成 20 年度までの公式発表資料をもとに分布状況を示しました。

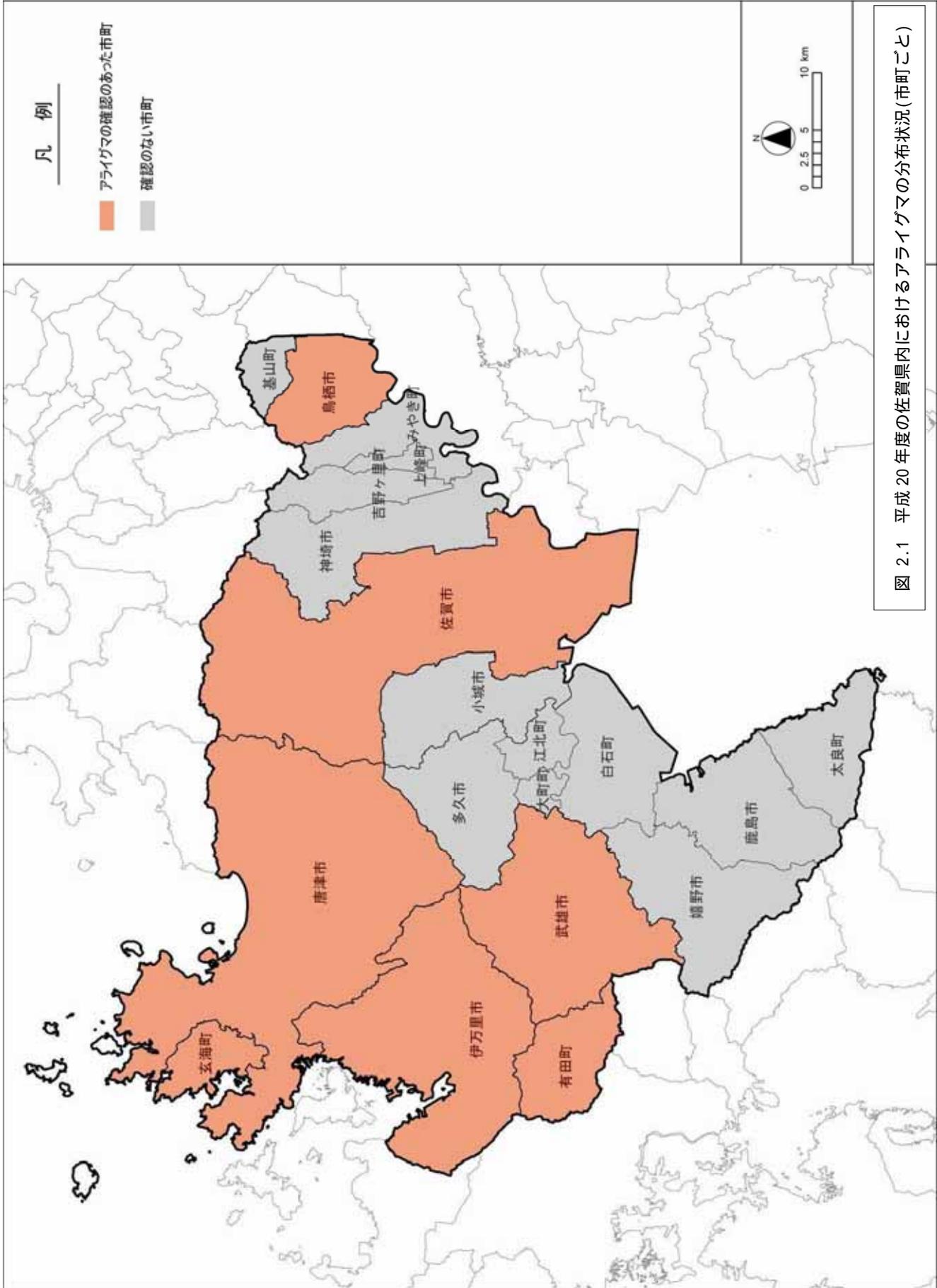


図 2.1 平成 20 年度の佐賀県内におけるアraigumaの分布状況(市町ごと)

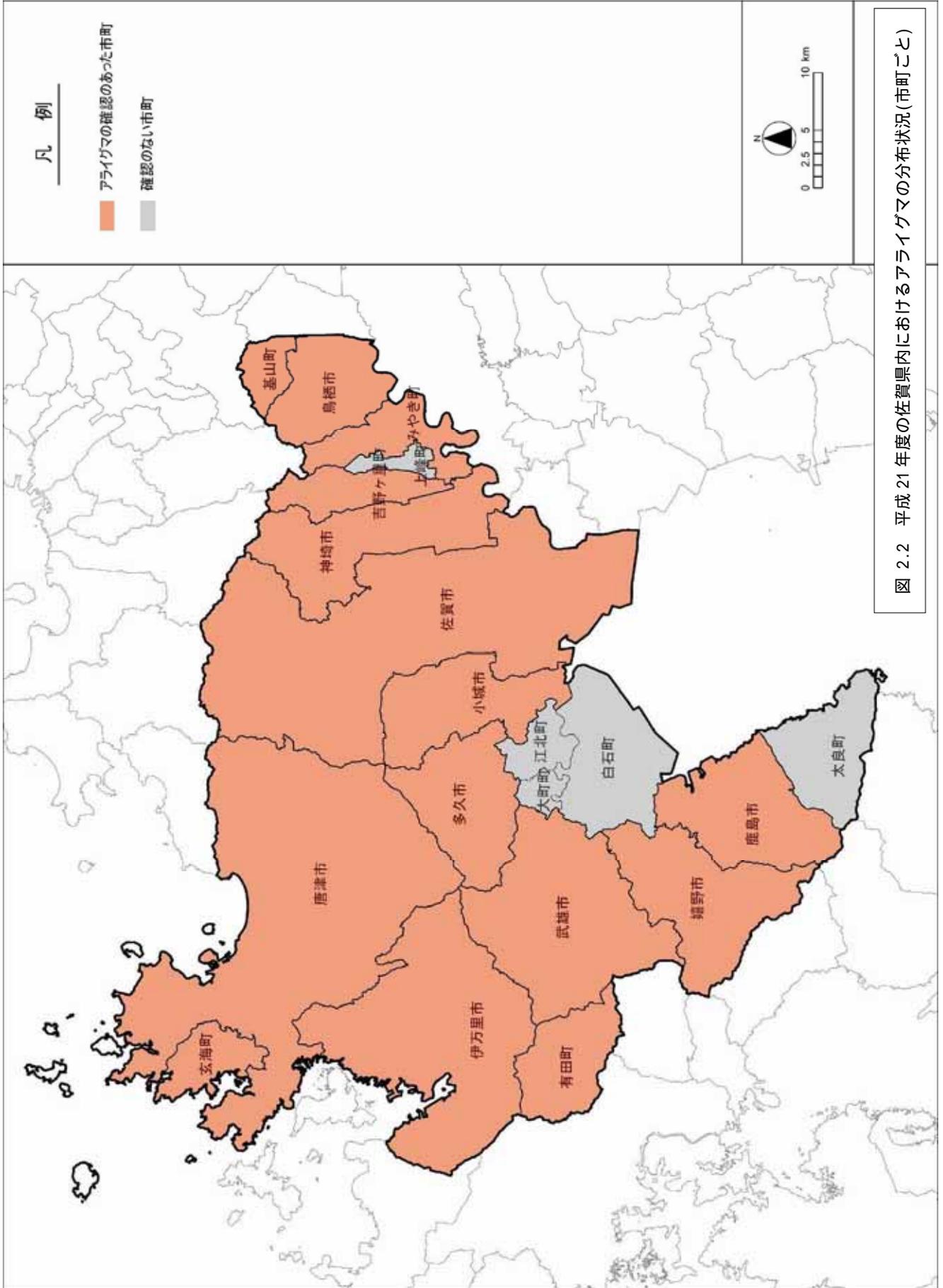


図 2.2 平成 21 年度の佐賀県内におけるアraigumaの分布状況(市町ごと)

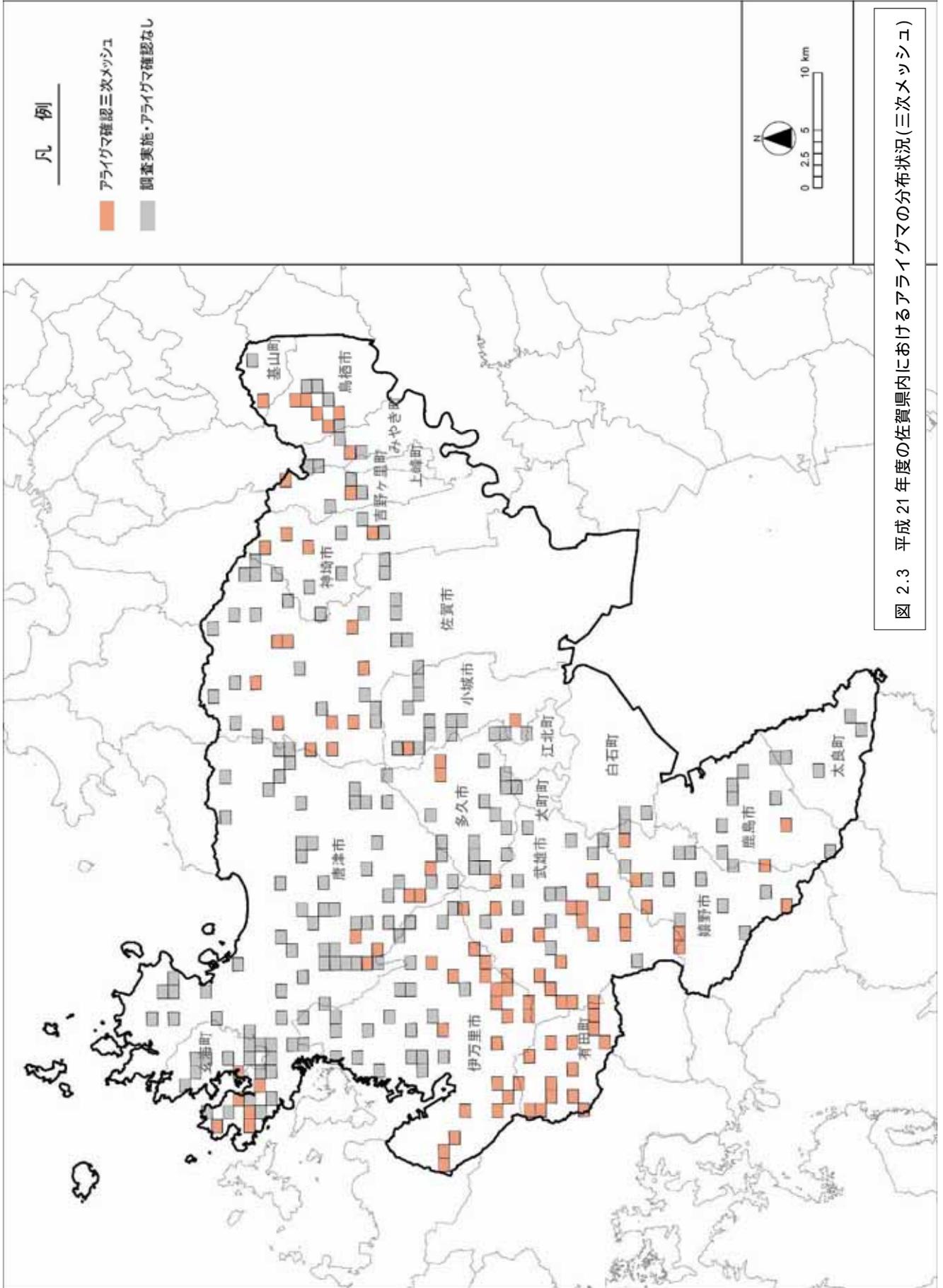


図 2.3 平成 21 年度の佐賀県内におけるアライグマの分布状況(三次メッシュ)



## 2.2 県内の生息状況

森林の溪流沿いや休耕田、溜池近辺で多く確認されていますが、市街地では確認されておりません。標高は、20m から 600m の範囲で、低地帯から山地帯まで分布しています。西部の武雄市、伊万里市、有田町等では、溜池や沢での確認記録が多く、東部の佐賀市富士町や神崎市、鳥栖市等では、西部のような溜池のような止水型の水辺はあまり見あたらないためか、溪流や休耕田の湿地周辺での確認が多くありました。また、西部の溜池を中心とする溪流環境には、複数個体の生息が確認され、同一地点にかなり高い密度で生息していることが推測できます。一方東部では、溪流環境で少数個体の確認が多く、広範にわたって生息しているが、同一地点での密度は低いことが推測できます。たとえば武雄市山内町では、溜池の流出溪流の谷間にて、9月から10月の二ヶ月の間に8頭のアライグマが捕獲された地点がありましたが、佐賀市富士町においては、一個体分の痕跡や自動撮影カメラでの撮影確認が、近接する5倍地域メッシュでそれぞれ1カ所ずつの確認があり、森林及び水辺環境による地域差がみられました。



西部の溜池(伊万里市東山代町)



東部の森林内の溪流(神崎市神埼町)



西部の溜池流入溪流(有田町仏ノ原)



東部の休耕田(基山町園部)

## 2.3 アライグマの好む生息環境

水際に護岸が無く、水面に近づきやすい池や河川  
湿地や浅瀬のある池沼  
河床に石や落ち葉が堆積している溪流  
河床が開かれており、流れが緩やかな平坦部のある溪流

一般的に水辺を好むと言われていますが、佐賀県でも同じように森林環境の溪流や沢、湿地、溜池、休耕田を好んで生息していると思われます。特に、傾斜が緩く、深く続くような沢型の地形で複数の生息確認を得られました。しかし、少ないながらも山間地の急傾斜の溪流でも生息を確認されており、個体によっては傾斜地でも生息していることがうかがえます。植生に関しては、スギやヒノキの植林地から広葉樹林地まで生息しており、季節ごとに餌を求めて活動の場を移動するため、限られた植生でのみ生息することは無いようです。

また、春の子育ての時期には家屋や寺社等への侵入、夏はスイカやトウモロコシ等の耕作地、秋にはカキの木、冬にはミカン園等で確認事例が多くなります。上記のような環境の近くにある、飼料のある畜舎や放置作物のある果樹園、屋根裏に入り込みやすい隙間のある家屋などでも確認されています。

しかしながら、年間を通して水辺への依存は高く、水生生物や両生類等の生き物が多く、捕食しやすい水辺環境がアライグマのもっとも好む環境だと言えます。



水の引いた溜池



民家周辺の水田



森林内の岩穴

## 2.4 県内のアライグマ個体状況

平成 21 年度「佐賀県アライグマ生息実態調査等業務」において捕獲されたアライグマ(143 頭)の平均体重は 5.5kg、オス 5.7kg、メス 5.3kg。平均頭胴長は 58.3cm、オス 59.2cm、メス 56.9cm。図 2.5 に体重と頭胴長について示しました。

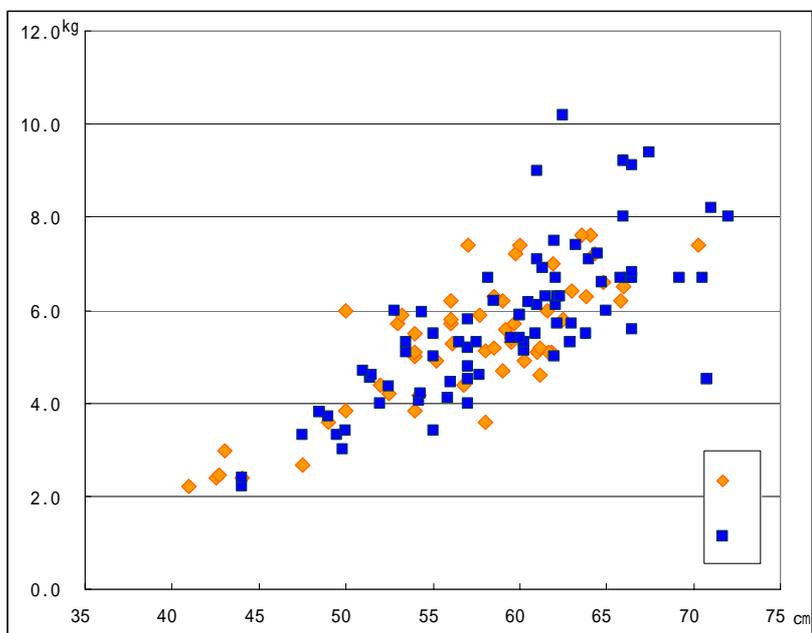


図 2.5 雌雄別の体重と頭胴長

また、捕獲されたアライグマのうち、年齢査定を実施した 71 個体の年齢構成を図 2.6 に示しました。若い個体が多く、今後生息数が増えていくことが十分に懸念されます。

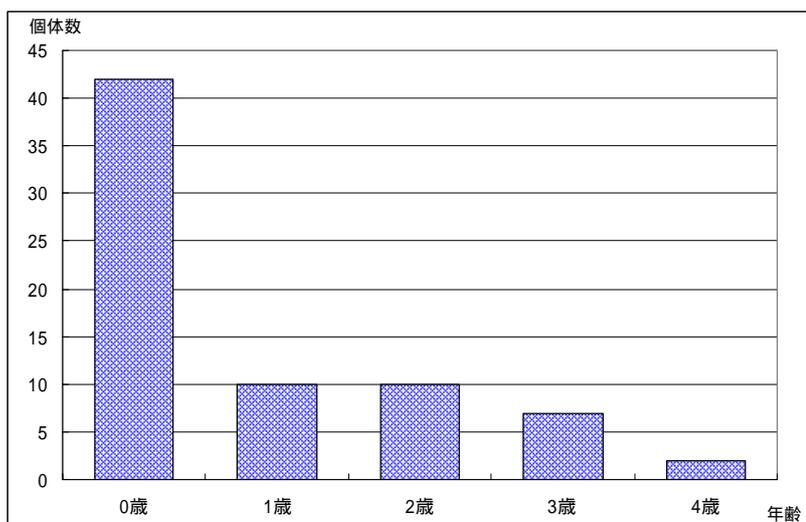


図 2.6 アライグマの年齢構成

## 2.5 県内でのアライグマの食べもの

水辺に依存しているとはいえ、多種多様な食性を有していることがわかります。動物質では、小型の哺乳類やヘビ、カエルを食べます。陸生の昆虫では、カマキリや甲虫の仲間、ハエ、ハチ、コオロギやバッタの仲間、各種幼虫を食べます。水生昆虫では、トンボのヤゴ、ガガンボやミズアブの幼虫、カワゲラやトビケラの幼虫まで食べています。サワガニやアメリカザリガニ、エビの仲間なども食べていました。

植物質も多種多様で、カキやアケビ、イヌビワ、ムクノキ、クスノキ、キカラスウリ、グミ、フジなどの果実を食べており、ドングリも種は不明ですが確認されました。

9月に武雄市東川登町で捕獲された個体は、オオカマキリ、コガネムシ科甲虫、ガガンボ類幼虫、エビ目の仲間、サワガニ、イヌビワの果実、カキの実等を食べており、まさに雑食であることがうかがえます。一方、12月に伊万里市東山代町で捕獲された個体は、オオカマキリの卵囊、サワガニ、ヘビ、ニホンヒキガエルの幼体、アケビの果実などを食べていました。どちらにもサワガニが食べられていますが、その他の個体、その他の季節でもサワガニの含まれる割合が多く、水辺をかなりの頻度で訪れていることがうかがいしれます。

表 2.1 アライグマの胃及び糞の内容物

内容物		例数	比率(%)	備考	
動物質	その他	8	11.11%	ムカデ、クモ等	
	鳥類	1	1.39%	羽根	
	両生類	1	1.39%	カエル	
	爬虫類	1	1.39%	ヘビ	
	哺乳類	2	2.78%	モグラorネズミ	
	甲殻類	その他甲殻類	2	2.78%	エビ、ザリガニ
		サワガニ	18	25.00%	
	昆虫類	水生昆虫	16	22.22%	トンボ(ヤゴ)、トビケラ(幼虫)等
		陸生昆虫	29	40.28%	カマキリ、甲虫、バッタ等
植物質	その他	61	84.72%	葉、茎、木片 等	
	実	41	56.94%	イヌビワ、ドングリ等	
	農作物	穀物	15	20.83%	コメ、ムギ等
		リンゴ	1	1.39%	
		ナシ	1	1.39%	
		キウイ	3	4.17%	
		カキ	12	16.67%	

アライグマの胃や直腸糞の内容物



サワガニ



オニヤンマのヤゴ



小動物の骨



カキの種子



キウイの種子



ムベの種子

## 2.6 アライグマによる被害

### 2.6.1 農畜産物被害

農業においては、果樹(カキ、ブドウ、ミカンなど)、畑作物(スイカ、トウモロコシ、プチトマトなど)を食害します。木や柵を登ることが出来るため、新たな防除対策を行う必要があり、農家への経済的な負担も大きくなっています。畜産業では、鶏舎や牛舎などでニワトリや飼料への食害が報告されています。賢く手先が器用なため、扉の鍵を開けて侵入することもあり、また寄生虫や伝染病の家畜への伝播も考えられます。

小城市では、スイカへの食害が認められています。また、吉野ヶ里町では放棄ミカンに毎晩のように複数のアライグマが集まっていることが確認されました。

伊万里市でも畜舎への侵入が確認され、畜舎付近に設置した箱わなでは、11月からの3ヶ月間で8頭のアライグマが捕獲されました。



牛舎に侵入したアライグマ



飼料小屋内に残る足跡

### 2.6.2 生活環境被害

人間の生活環境においては、家屋へ侵入し住み着く事による糞尿被害および衛生害虫の増加、文化財などへの損害が懸念され、また感染すると治療法が無いとされるアライグマ回虫や狂犬病、ジステンパーなどのヒトや愛玩動物への感染も懸念されます。

伊万里市では、天井裏に入り込む被害がヒアリングによって確認されました。

小城市では、納屋への入り込みも確認されています。



納屋の金網に開けられた侵入口

### 2.6.3 生態系被害

生態系においては、タヌキ、アナグマ、キツネ、テン、イタチなどの競合する在来種への影響が懸念され、特に生息環境が重なり、餌資源で競合するタヌキやアナグマ、巣穴を奪われる可能性のあるキツネに対して影響が大きいと予想されます。また木登りが上手く手先が器用なため、樹上の鳥の巣、樹洞に生息するヤマネ(国の天然記念物、多良山系に生息)、樹洞性コウモリ類、ムササビ、フクロウ類などの希少な野生動物を捕食または営巣を放棄させている可能性があります。また、水場では餌の少ない冬季に繁殖・産卵のために集まるカスミサンショウウオ、ヤマアカガエル、ニホンアカガエル、ニホンヒキガエルなどの希少な両生類への影響が特に大きいと予想されます。実際に、鳥栖市において捕獲された個体からサンショウウオに寄生する寄生虫が発見され、カスミサンショウウオを捕食していると考えられます。また、伊万里市では、ニホンヒキガエル(幼体)が胃内容から検出されています。



カスミサンショウウオ



ヤマアカガエル



ニホンヒキガエル



タゴガエル